

ひとり1改革運動

『『やめる・へらす・かえる』で効率化』改革賞

『『賀茂』は、ひとつ。』・・・市町地域防災計画の修正作業の効率化

【賀茂振興局 危機管理課危機管理班】



賀茂地域の一部市町においては防災を専門とする所管課がなく担当者が十分なノウハウを有していない場合もあり、市町地域防災計画の作成にあたり、市町職員への支援の必要性を感じていました。

そこで、防災計画の修正業務の簡潔・明瞭化を図るため、県地域防災計画の修正箇所を確認した上で、各市町の地域防災計画の修正案との相違点を整理した「補正事項リスト」を作成し、市町職員へ具体的なページ、行名等を明示することとしました。

その結果、各市町がこれまで要していた地域防災計画修正作業時間を約4割削減するなど、大幅に作業時間を削減することができました。

工夫した点は？

- 「補正事項リスト」を作成する上で、簡潔・明瞭化を図るため、具体的なページ名・行名等を具体的に該当市町へ明示することとしました。
- 市町職員の誰もが当該計画の修正業務に対応できるよう、いままでの補正依頼書の記述形式等を見直し、補正内容は「赤文字」で、修正根拠は「青文字」で示すこととしました。

今後に向けての更なる取組は？

- 「補正事項リスト」の活用により、管内6市町の計画修正報告は、速やかに県防災会議に報告され、すべて承認されました。これにより、賀茂地域が『ひとつ』になって、現行法制等に即した防災体制を構築することができました。
- 本取組を他の業務にも活用できるよう、「賀茂振興局危機管理課データベース」で情報共有していきます。

「補正事項リスト」(サンプル)

【静岡大学 日誌教授 から一言】

市町の業務を補完することも県の重要な役割です。特に、防災といった専門性の高い領域での賀茂地区の市町を支援することは県民の安全・安心といった観点から極めて重要なことです。今回の事例は、市町における地域防災計画の修正作業を簡便に行った取り組みであり、作業時間の節減に大きく貢献しています。

ひとり1改革運動

「『やめる・へらす・かえる』で効率化」改革賞

川の流れを工夫して維持管理費を削減

【沼津土木事務所 工事第1課工事第2班】



これまで、河川維持工事により発生する除草の草木や土砂は、民間の処理場で有料処分していました。また、施工した箇所は、数年経つと元どおりに草が繁茂し、その都度対応していました。

そこで、工法の見直しを行い、川の中心部を掘り込み一定の水深（30cm）を確保することで草木の繁殖を抑制するとともに、掘削土砂は搬出せず小段状に寄せて護岸保護に活用することとしました。

その結果、除草費用や掘削土砂の有効活用により、年間約500万円の経費削減を図ることができました。

工夫した点は？

- 川の中央部を深く掘り込み、一定の水深を確保する工法に見直すことで草木の繁殖を抑制するとともに、水生生物の生息環境の改善が図られました。
- 堆積土砂は搬出せず、護岸保護に活用することで残土の運搬・処分費を削減するとともに、護岸補修費の削減が図られました。
- 護岸保護により、点検・巡視や除草作業等が安全で容易に行えるようになりました。

今後に向けての更なる取組は？

- 除草作業が安全で容易に行えるようになったことから「リバーフレンドシップ制度」等を活用し、市町や地元住民と連携し除草等の維持管理作業を行えるよう検討していきます。
- 更なる改善点や、各担当の現場での応用について意見を出し合い、今後も継続して、同工法による施工範囲を広げていきます。

護岸補修



河床掘削の状況

（河床掘削＋寄土、護岸の草木伐採後）



河道内の葎と堆積土砂を除去。ただし、一部の土砂を護岸前に配置し、基礎部の補強も図る

【静岡産業大学 松本教授 から一言】

この事案からの教訓は、実効性のある改革を実現する上で、現場の知識、経験、専門性が重要であること、そして、職員がやりがいと課題意識を持って仕事に取り組むことが必要であるということではないかと思えます。この意味で、本事例は、施策の分野を問わず参考となる事例でしょう。

ひとり1改革運動

「『やめる・へらす・かえる』で効率化」改革賞

転入職員がすぐに活躍できる、実務に即した「スタートアップマニュアル」を策定

【東部健康福祉センター 育成課育成第1班】



本県の昨年度の児童虐待相談件数は過去最多を更新し、子どもの命に関わる虐待への対応は喫緊の課題であり、異動により配置間もない職員も即戦力として活躍することが求められていました。また、児童相談所の事務がまとめられている「静岡県児童相談所事務処理要領」は、必要事項が全て網羅されている半面、必要な部分が探しにくいなどの課題もありました。

そこで、新たに赴任した職員がケースワーカーとしてすぐに稼働できるよう「実務マニュアル」を作成することとしました。

実務に即した情報・知識をコンパクトにまとめたマニュアルの活用により、新規採用職員や異動直後の職員の業務の効率化が図られました。

工夫した点は？

- 少ないページに多くの情報量を盛り込める「ポンチ絵」を多用しました。
- 探したい項目を短時間で検索できるよう、見出しの工夫や「逆引きページ」を設けました。
- ストレスの多い仕事をする上での「職員のメンタルヘルス」についても言及しました。

今後に向けての更なる取組は？

- 市の職員へも配布したところ「とても参考になる」との声をいただきました。
- 他の児童相談所にも有効活用していただけるようマニュアルを配布していきます。
- 毎月1回、定期打合せを行い、事務で工夫したことや上手くいった事例について班員同士で意見を出し合い共有化を図っていきます。



「スタートアップマニュアル」の一部



班内ミーティングの様子

【静岡文化芸術大学 田中教授 から一言】

児童虐待相談件数が増加傾向にある中で、業務の円滑で効率的な遂行につながる優れた取り組みです。マニュアルができたことで、重要な業務により多くの時間を割くことができるようになるため、相談機能のレベルアップも期待されます。マニュアルの作成を成し遂げた班員のチームワークも称賛に値します。

ひとり1改革運動

「『やめる・へらす・かえる』で効率化」改革賞

機械の操作方法を見直して、脱水ケーキ（産業廃棄物）の発生量及び処理委託費等を削減

【交通基盤部 生活排水課（静岡県下水道公社 狩野川東部事務所）】



狩野川東部浄化センターには下水汚泥を脱水するための遠心脱水機が3台あり、下水汚泥は脱水後、産業廃棄物として処理委託していますが、脱水後の下水汚泥について、同じ仕様・能力の脱水機にもかかわらず含水率に違いがあることがモニタリング調査から判明しました。

下水汚泥に含まれる水も汚泥と合わせて産業廃棄物として有価処理されているため、分析調査を行い問題の要因分析を行うこととしました。

メーカーや運転管理者の協力を得て問題解決を図った結果、「差速の調整で脱水性能の調整を行う（差速制御）」により、下水汚泥の含水率が低下し、結果として処分費年間約700万円を削減することができました。

工夫した点は？

- ・同じ仕様・能力の3台の脱水機について、それぞれモニタリング調査を実施し、問題の要因分析を行い改善策の検討を行いました。
- ・メーカーや、実務を行う委託業者の協力を得て、問題解決に向けて改善に取り組みました。
- ・改善策を定着させるため運転管理担当者向けの説明会を実施しました。

今後に向けての更なる取組は？

- ・季節、天候、水処理の運転管理等により、日々変化する汚泥に対し、適切な脱水運転を行うことが重要となるため、今後も引き続き、データの蓄積を行っていきます。

操作方法

- 1 差速の値と汚泥の濃度を確認する。
- 2 調整が必要な場合は、差速制御（油圧の調整）を行う。



操作するボタンは、「」のみ

操作の様子



<差速計>

<汚泥濃度計>



<油圧圧力計>



【静岡県立大学 西野教授 から一言】

民間への業務委託はともすると、受託業者の専門性などに依拠し、任せっぱなしになりがちであるが、本取組は事務所がしっかりモニタリングしてデータを蓄積し、改善を何回も働きかけた結果、汚泥処理費の軽減に結び付けた。アウトソーシングのマイナス面を見事に克服した優れた取組である。